

豊川下流域の感潮域貝類

松岡敬二*
寺本和子**
鳥居和孝***
近藤貴夫****

1. はじめに

豊川は段戸山に源を発し、豊橋平野に入ると大きく蛇行し、三河湾の東部に流入している。

下流部は海の影響のある感潮域を形成し、ヤマトシジミを豊富に産する有数の川としても知られている。豊川の感潮域貝類については、1997年に調査された松岡ほか(1999)、木村・木村(1999)の研究があるが、それ以後はまとまった研究はされていない。

前回の調査から10年近く経過している現在、貝類相の変化も予想されるために、感潮域を代表するヤマトシジミの生息範囲を中心に概略的な調査を行ったので報告する。

2. 調査地点の貝類

松岡ほか(1999)の豊川河口から下条大橋上流の間の調査地点(St.1~St.20)のうち、河口から約2.7km~約9.4km間の9地点を選び(第1図)、干潮時に水深1m前後の場所で



第1図 豊川下流域の調査地点

底質とともに手動マングワによって試料を採集した。

- 地点①：渡津橋と上渡津橋の間地点の右岸（松岡ほか，1999のSt.12岸寄り）
 地点②：上渡津橋の下流（松岡ほか，1999のSt.11）
 地点③：豊橋橋梁（JR・名鉄）上流（松岡ほか，1999のSt. 9）
 地点④：豊橋下（松岡ほか，1999のSt. 8）
 地点⑤：金色島側（松岡ほか，1999のSt. 7岸寄り）
 地点⑥：大村樋門対岸（松岡ほか，1999のSt. 6）
 地点⑦：創造大学西の豊川右岸（河口から約8.7km）
 地点⑧：牛川の渡し，豊川右岸（松岡ほか，1999のSt. 4の岸寄り）
 地点⑨：神田川合流部分の中州近く（河口から約9.4km）

船上で採集した試料はすべてビニール袋

に入れ，下船後に篩を使い泥分を流したものを，約70%のアルコールを加えたポリ瓶に保存した．分類にあたっては，各地点の試料を，再度篩で水洗し，乾燥したものを使用した．その結果を第1表にまとめた．腹足類でアマオブネガイ科1種，ウミニナ科1種，タマキビ科1種，カワグチツボ科1種，ミズゴマツボ科1種，カワザンショウガイ科1種，二枚貝類でイガイ科2種，イタボガキ科1種，シジミガイ科3種，チドリマスオガイ科1種，ニッコウガイ科1



第2図 調査地点④の試料採集風景

種名 (和名)	地 点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
<i>Clithon retropictus</i>	(イシマキガイ)	○			○		○			
<i>Littorina brevicula</i>	(タマキビガイ)	○								
<i>Assiminea japonica</i>	(カワザンショウガイ)	○	○	○			○			
<i>Fluviocingula elegantula</i>	(カワグチツボ)	○								
<i>Stenothyra edogawensis</i>	(エドガワミズゴマツボ)	○								
<i>Batillaria multiformis</i>	(ウミニナ)		○							
<i>Musculista senhousia</i>	(ホトトギスガイ)		○							
<i>Xenostrobus atratus</i>	(クログチ)	○								
<i>Crassostrea gigas</i>	(マガキ)	○	○							
<i>Corbicula japonica</i>	(ヤマトシジミ)		○	○	○	○	○	○		
<i>Corbicula fluminea</i>	(タイワンシジミ)						○	○	○	○
<i>Corbicula leana</i>	(マシジミ)						○	○	○	
<i>Coecella chinensis</i>	(クチバガイ)		○							
<i>Macoma incongrua</i>	(ヒメシラトリガイ)	○								
<i>Mya arenaria oonogai</i>	(オオノガイ)		○							
<i>Laternula marilina</i>	(ソトオリガイ)	○								

第1表 豊川下流域の貝類

種, オオノガイ科1種, ソトオリガイ科1種であった。

今回の調査と松岡ほか(1999)と異なる点は, 感潮域の上部域(地点⑥~⑨)にタイワンシジミが確認され, マシジミの生息域では大半がタイワンシジミに置き換わっていることである。愛知県でのタイワンシジミは, 1997年に刈谷市, 2000年に知立市から報告されている(原田, 2000)。

2005年9月には「どこでもミュージアムエコ」(豊橋市自然史博物館・国立科学博物館・東京学芸大学・朝倉川育水フォーラム共催行事)において, 豊川支流の朝倉川水系で確認されていたが, 豊川本流でも確認されたことになる。

地点①から採集されたカワグチツボとエドガワミズゴマツボ(=ウミゴマツボ)は, 愛知県レッドデータリストでは, 準絶滅危惧に位置づけられている(愛知県環境部編, 2002)。エドガワミズゴマツボとクログチは, 松岡ほか(1999)では確認されていない。地点①ないし地点②で確認されたクチバガイ, ヒメシラトリガイ, オオノガイ, ソトオリガイは幼貝のみであった。オオノガイ, ソトオリガイは愛知県レッドデータリストの準絶滅危惧(愛知県環境部編, 2002)である。

豊川から記録のあるタケノコカワニナ, ヒロクチカノコ, オカミミガイ(愛知県科学教育センター, 1967; 松岡, 2003)のう

ち, 渡津橋上流から1967年と1972年に採集されたヒロクチカノコ, オカミミガイが豊橋市自然史博物館に寄贈された貝類標本に含まれていた。両種は1970年代初頭まで豊川に生存していたことを示すものである。豊川以外の生息地では, 愛知県レッドデータリストの絶滅危惧Ⅱ類(愛知県環境部編, 2002)に分類され, 生息地の環境悪化により県内全体で個体群が減少している。

3. まとめ

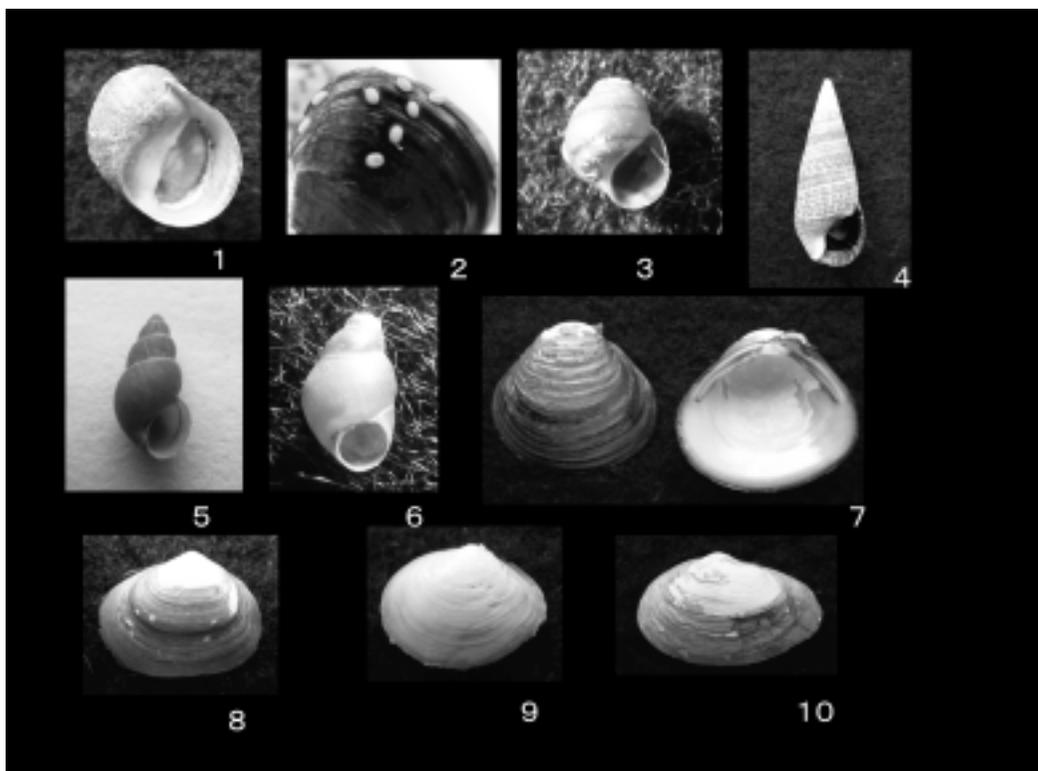
1999年以降の貝類相の変化のうち, 外来種のタイワンシジミが淡水域から感潮域の上部で繁殖していることが最も大きなことである。タイワンシジミの消長と他種への影響については, 追跡調査する予定である。既知の種については, 愛知県のレッドデータリストに分類された2種が含まれている。

今回の調査方法はヤマトシジミ用の手動マングワであったために, 小型種が抜け落ちた可能性があり, マングワの改良が必要である。

なお, 調査に当り, 豊川下流漁業組合の方々に協力していただいた。ここに記して謝意を表する。

参考文献

- 1) 愛知県科学教育センター(1967) 愛知の動物。愛知県科学教育センター。
- 2) 愛知県環境部編(2002) レッドデータブックあいち・動物編。愛知県。
- 3) 原田一夫(2000) タイワンシジミが愛知県に侵入。かきつばた, (26): 10。
- 4) 木村昭一・木村妙子(1999) 三河湾および伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相。日本ベントス学会誌, 54, 44-56。
- 5) 松岡敬二(2003) 蜆塚遺跡出土のタケノコカワニナの意義。浜松市博物館報, (16), 11-15。
- 6) 松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己(1999) 豊川下流域の貝類相。豊橋市自然史博研報, (9): 15-24。



第3図 豊川下流域の貝類

- | | | |
|-----------------------|----------------------|--------------------|
| 1.イシマキガイ (殻高11.6mm) | 2.ヤマトシジミ殻表のイシマキガイの卵囊 | |
| 3.カワザンショウガイ (殻高4mm) | 4.ウミニナ (殻高27.6mm) | 5.カワグチツボ (殻高4.3mm) |
| 6.エドガワミズゴマツボ (殻高3mm) | 7.タイワンシジミ (殻長20.2mm) | 8.クチバガイ (殻長11.5mm) |
| 9.ヒメシラトリガイ (殻長12.0mm) | 10.オオノガイ (殻長21.0mm) | |